

お薬の副作用について

お薬には、症状の改善や病気を治す働きがあります。医師の指示通り使用すれば、あまり心配はありませんが、まれに好ましくない働き（いわゆる副作用）が出る場合があります。

副作用の出方には、個人差があり、同じ薬を飲んでいても全く起こらない人もいれば、非常にまれではありますが、入院して治療が必要となる場合もあります。

一般に肝臓、腎臓、呼吸器官、血液に障害が起こると、次のような症状が現れる場合があります。もし、お薬の使用中にこのような症状に気付いたら、副作用の可能性もありますので主治医に相談して下さい。

肝臓に起こったら



皮膚や白目が黄色くなる
次第に強くなる体のだるさ
体が痒い
熱が出る
食欲がない

腎臓に起こったら



体や顔、手足がむくむ
尿量が少なくなる
体がだるい
熱が出る
尿が泡立つ

呼吸器官に起こったら



息苦しい
咳が出る
熱が出る
胸が苦しい
息切れする

血液に起こったら



熱が出る
のどが痛い
口の中が荒れる
手足に赤い点やあざができる
歯ぐきなどが出血しやすい

また、人によっては、薬による過敏症状を起こすことがありますので、次のような症状が現れましたら、薬の使用を中止して、すぐに主治医に相談して下さい。

過敏症状



顔が赤く熱くなる
発疹が出る
体が痒い
唇や舌がしびれる
息苦しい
目の前が真っ暗になる